

令和4年 2月「月報」

1 はじめに

令和4年の幕開けとともに、新型コロナウイルスの変異株（オミクロン株）が急速に感染拡大し、2月1日現在、全国で90,000名の新規感染者となっています。

政府は、以下のように「まん延防止等重点措置」を適用し、感染対策を講じています。

オミクロン株による急激な感染拡大を受け、2月から全国各地で予定されている入校・入隊予定者激励会が3年連続で中止または規模縮小となることが予想され、本会の新規会員獲得に影響が出るのが懸念されます。

一方、1月15日、トンガ王国北方の海底火山の大規模噴火があり、火山灰及び津波に

適用 期 間	1月9日～ 2月20日	1月21日～ 2月13日	1月27日～ 2月20日	備 考
まん延 防止等 重点 措置	広島県 山口県 沖縄県 の3県	東京都、埼玉県、神奈川県 千葉県、愛知県、岐阜県、 三重県、群馬県、新潟県、 香川県、長崎県、熊本県、 宮崎県 の13都県	大阪府、京都府、兵庫県 北海道、青森県、山形県、 福島県、栃木県、茨城県、 静岡県、石川県、長野県、 岡山県、島根県、福岡県、 佐賀県、大分県、鹿児島県 の18道府県	合計 34 都道府 県に 適用

よる大規模な被害がトンガ王国で発生しました。

岸防衛大臣は、直ちに国際緊急援助活動空輸隊と輸送艦「おおすみ」を基幹とする緊急援助活動統合任務部隊を現地に派遣し、トンガ王国への緊急援助活動を開始しました。

派遣空輸隊の隊員が新型コロナに感染したことによる交代要員の追加派遣を行うなど、困難を伴う緊急援助活動を黙々と遂行する自衛隊には本当に頭が下がります。

本会は、広島・愛知・鳥取の各県家族会長等のご協力を得て、トンガ王国国際緊急援助活動派遣部隊への慰問・激励を実施しました。

2 防衛省・自衛隊の活動

(1) トンガ王国への国際緊急援助活動

1月20日、政府は自衛隊による国際緊急援助隊の派遣を決めました。これを受け防衛省は、同日トンガ王国国際緊急援助航空隊等を編成し、空自小牧基地(愛知県)

からC-130輸送機2機が飲料水等を積載し、オーストラリアに向け出発しました。

この内1機が翌21日午後にはトンガ王国のファアモツ国際空港に到着し、飲用水約3トンを被災者に届けました。また新たにC-2輸送機2機(鳥取県、三保基地)を派遣し緊急援助活動を行いました。

更に防衛省は、海自の輸送艦「おおすみ」を基幹とするトンガ王国国際緊急援助活

動統合任務部隊を編成し、支援物資や火山灰除去用の高圧洗浄機などを積載し、24日午後に呉港から出航しました。7日に現地へ到着の予定です。

「おおすみ」には、陸自第1ヘリコプター団(木更津)のCH-47ヘリコプター2機及び中部方面隊の管制員並びに海自エアクッション艇(LCAC)2艇を搭載、隊員は約300名で、現地で緊急支援物資の輸送等を行う予定です。



派遣隊員の搭乗・出発



統合任務部隊指揮官による出発報告

(2) 3回目接種大規模接種センターの開設・運営

岸田総理大臣は1月11日、3回目接種を推進するための大規模接種センターの開設運営を岸防衛大臣に指示しました。期間は7月31日までの予定です。

ア 自衛隊東京大規模接種センター(東京会場)

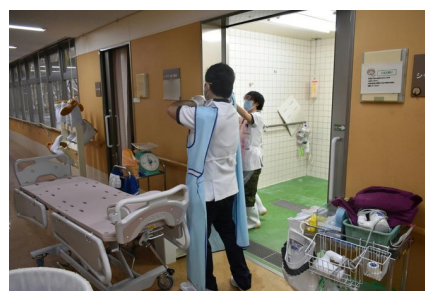
接種会場は、前回と同じ大手町合同庁舎3号館で、1月31日から運営を開始し、1日あたり720回、2月7日以降は2160回へ拡大し、接種を行う予定です。

イ 自衛隊大阪大規模接種センター(大阪会場)

接種会場は、八木ビル(大阪市中央区久太郎町2-2-8)で、2月7日から運営を開始し、1日あたり960回の接種を行う予定です。

(3) 新型コロナウイルス市中感染拡大防止に係る災害派遣

1月11～17日の間、陸自第15旅団は、沖縄県知事からの新型コロナウイルス市中感染拡大防止に係る災害派遣要請に基づき、沖縄県立北部病院及び同中部病院に看護官等10名を派遣し、感染者の健康管理や医療支援を行いました。



患者の入浴支援準備をする看護官

3 家族会の活動

(1) トンガ王国国際緊急援助活動派遣部隊への慰問・激励

ア トンガ王国国際緊急援助活動統合任務部隊への慰問・激励(広島県家族会)

1月22日、広島県自衛隊家族会(福谷薫会長)は、国際緊急援助活動現地統合

任務部隊への本会からの慰問・激励を担任するとともに、同県家族会からも激励を行いました。

当日は、平本喜江広島県家族会副会長と山崎同事務局長が広島県隊友会とともに、呉基地を訪問し、現地統合任務部隊指揮官（第1輸送隊司令）の松味利紀1等海佐及び輸送艦「おおすみ」艦長の渡邊秀幸2等海佐へ隊友会と同時に激励品を贈呈しました。

平本副会長は、ウイルス感染防止のため、埠頭にて栄養補助食品（トロフィーゼリー等）及び疲労回復食品（乳酸菌ドリンク・せんべい）などの激励品を贈呈し、「トンガ王国被災民のために任務を完遂し、全員が無事に帰国されることを祈念します」と激励しました。



松味司令に激励品を贈呈する平本副会長 おおすみを背後に謝辞を述べる松味司令
イ トンガ王国国際緊急援助空輸隊等への慰問・激励（愛知県・鳥取県家族会）

1月20日2200、国際緊急援助活動空輸隊としてC-130×2機が、小牧基地（愛知県）から急遽オーストラリアへ向けて出発、引き続き22～23日、C-2×2機が美保基地（鳥取県）から出発し、現地（オーストラリア～トンガ王国間）で緊急援助活動を実施中のため、本会からの慰問・激励を派遣前には実施できませんでした。

このため、愛知県自衛隊家族会（堀川孝一会長）から派遣空輸隊指揮官（第1輸送航空隊司令）の渡部琢也空将補へ、鳥取県自衛隊家族会（前田節夫会長）から派遣空輸隊指揮官（第3輸送航空隊司令）の與儀孝1等空佐へそれぞれ調整し、帰国後に、本会からの慰問・激励を行う予定です。

（2）北京冬季オリンピック出場選手の本会への訪問

1月24日、自衛隊体育学校所属の北京冬季オリンピック代表内定選手7名を代表し、クロスカントリースキー競技に出場予定の山下陽揮2等陸曹が、石津体育学校副校長ほか2名とともに訪問し、伊藤家族会会長及び土谷同事務局長が応対しました。

22歳の山下選手は、オリンピック参加は初めてとなりますが、クロスカントリースキー競技4部門に出場し、「自分の力を出し切れるように強い信念をもって目標に突き進む」とその意気込みを熱く語りました。

北京冬季オリンピック出場内定選手は以下の7名ですが、本日欠席の6名は、ワー

ルドカップなどを転戦し、そのまま北京入りの予定です。

(なお、本会からの激励は、昨夏の東京オリンピック大会時にすでに贈呈しています)

ア バイアスロン出場内定選手・男子()内は出身県

＊枋木 司 3等陸曹 (青森県) ＊尾崎光輔 3等陸曹 (山形県)

イ バイアスロン出場内定選手・女子

＊立崎英由子 2等陸尉 (秋田県) ＊田中友里恵 2等陸曹 (新潟県)

＊前田 沙里 2等陸曹 (北海道) ＊蜂須賀明香 2等陸曹 (北海道)

ウ クロスカントリースキー出場内定選手

＊山下陽輝 2等陸曹 (富山県)



山下選手(左)と伊藤会長(右)



事務局で抱負を語る山下選手

(3) UNMISS 司令部要員からの近況報告

1月14日、昨年8月から UNMISS 司令部(南スーダン)に派遣されている施設幕僚の有菌 3等陸佐及び情報幕僚の原田 1等陸尉から、現地での活動報告が届きましたので原文のまま紹介します。

自衛隊家族会 御中

麗らかな新春を迎え、公益社団法人家族会の皆様におかれましては、益々ご清栄のことと心からお喜びを申し上げます。

ここ南スーダンのジュバでは、大晦日やお正月といえども猛暑が続き、日本の四季が恋しく感じられる 今日この頃です。

出国の際は、新書を含む多くの書籍、そして心尽くしの日本の味を頂戴し、有難うございました。書籍は コロナ禍における私達の心の肥やしに、即席食品は私達の日々の食生活の相棒として、重宝させていただいております。

さて、私達2名がここ南スーダンに到着してから早4ヶ月が経過しました。コロナの影響で世界的に鎖国状態が続いている中、国連ミッションという最もグローバルな、軍民入り混じる環境下において、日の丸をつけて勤務することは、日本の国益に何かしら貢献するとともに、気候変動や人間の安全保障等、国際社会の課題について肌感覚で学べる貴重な機会と捉えています。

日の丸をつけているだけで、「日本隊の仕事は丁寧で、部隊派遣国の手本となる部隊だった。」と目を細めて当時を懐かしみ、話しかけてくれる人も多くいます。これも、諸先

輩方が築き上げてくれた静かな汗と 涙、そして自衛隊を長く応援して下さる家族会の皆様の御尽力の賜物と感じています。私達も、その日の丸への信頼をしっかりと引き継ぎ、今後も任務に邁進していく所存です。結びになりますが、こちらの勤務状況や生活の様子を皆様に少しでも感じていただきたいと思います、写真を 数枚ほど添付しておりますので、ご笑覧いただけたらと思います。理事をはじめ、家族会の皆様の方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。

第13代 施設幕僚 3等陸佐 有蘭 光代

第13代 情報幕僚 1等陸尉 原田 寿幸



バン格拉デシュ工兵と勤務の有蘭 3佐(右)



職場で勤務する原田 1尉

(4) 家族支援協力に関する協定の締結（奈良県自衛隊家族会）

奈良県自衛隊家族会（河本順雄会長）は、昨年 12 月 17 日、大久保駐屯地において家族会及び奈良県隊友会（大坪好徳会長）並びに大久保駐屯地（司令：第 4 施設団長坂元秀明陸将補）との 3 者間で、「奈良県に所在する隊員家族の支援に対する協力に関する協定」を締結しました。

南海トラフ地震の発生が予期される現在、家族会は大規模災害への関心は高く、予てより会の活動の柱として、災害派遣される隊員が安心して任務に邁進できるための支援体制の確立が急務と考えていました。

今回の支援協力協定締結により、河本家族会長は、「隊員の要望に対し可能な限り応え、実効性の高い活動に努めてまいりたい」と述べました。



坂元司令（中央）河本家族会長（右 2）
大坪隊友会会長（左 2）

(5) 「入隊・入校確定者情報の提供に関する協定書」の締結（東京都家族会）

1 月 20 日、佐竹正紀東京都自衛隊家族会会長は、東京地方協力本部長（山下博二

陸将補）との間において、「入隊・入校確定者情報の提供に関する協定書」を締結しました。神奈川・長崎県家族会に次いで全国で3例目となります。

本協定は、東京都家族会への提供に同意した『入隊・入校確定者及び家族に関する情報』を東京地方協力本部から東京都家族会へ提供するにあたり相互に実施する事項を定めたものです。

東京都家族会は、会員減少を何とか食い止めるための打開策として、入隊・入校確定者家族の情報提供を東京地方協力本部へ打診し、協議を経て今回の協定書締結に至りました。



山下本部長(左)と佐竹家族会会長(右)

(6) 部隊行進訓練を激励（富山県 射水市自衛隊家族会）

昨年12月3日、射水市自衛隊家族会（曾根隆子会長）は、陸自第14普通科連隊第4中隊（金沢駐屯地）の行進訓練を応援・激励しました。

当日は、会員有志13名が、行進経路上の中間目標とした「新湊大橋」のたもとの「海王丸パーク」駐車場において、横断幕とのぼり旗を掲げ日の丸を振って部隊を出迎え、訓練の無事とゴール地点での再会を約束しつつ激励しました。

再び、ゴール地点の「道の駅カモンパーク新湊」に全員が集結し、部隊の到着を迎える頃には冷たい降雨となり、会員の「お帰りなさい！お疲れ様！」との声掛けに、小さく頭を下げる隊列は遅しく、凛々しく立派に映りました。

会員皆が、それぞれの地で勤務する我が子（隊員）に思いを馳せつつ、「訓練完遂お疲れ様！頑張ってね！」と声をかけ、部隊の訓練終了を慰労しました。

私たち家族会は、『全国で奮闘する全ての隊員の親でありたい！』そう再認識できた1日でしたと、曾根会長は述べました。



「海王丸パーク」で隊員を激励



隊員との集合写真（立山連峰を背景に）

(6) 東京地方協力本部が行う広報活動『ティッシュ配り』支援（隅田地区自衛隊家族会）

1月10日、墨田区自衛隊家族会の原田次郎支部長は、細川隊友会会員及び倉橋自衛官募集相談員とともに、東京地方協力本部江東出張所（江越所長ほか）が行う広報活動（墨田区で行われた成人式参加者へのお祝いのティッシュ配り）を支援し、入隊者獲得に努めました



成人者にティッシュを配る原田支部長

(7) 家族会活動スナップ

つなぎ広報（合格者・保護者説明会）支援



札幌自衛隊家族会東区支部（藤田恵子支部長）

静岡県護国神社の清掃奉仕活動



静岡自衛隊家族会（増田親男事務局長）